

令和4年度第2回亘理地域農業普及活動検討会

日時 令和5年1月27日(金)
午後1時30分から午後4時まで
場所 宮城県亘理農業改良普及センター
2階会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ (松原所長)

3 普及活動検討

(1) 令和4年度プロジェクト課題の実施状況について

- ① 新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展
(説明者：松崎技師)
- ② 次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上
(説明者：鈴木技師)
- ③ 担い手育成と果樹優良品種導入による果樹産地の維持発展
(説明者：伊藤技術主幹)
- ④ 新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現
(説明者：高橋技術主幹)

(2) 令和5年度普及指導計画(案)について

(説明者：門間総括)

(3) 総合討議・意見交換 (座長 松原所長)

(4) 革新支援専門員コメント

4 閉 会

令和4年度 第2回亶理地域農業普及活動検討会 出席者名簿

<検討委員>

(敬称略)

所 属	役 職	氏 名	備 考
宮城県指導農業士	(有)やさい工房八巻 専務	八巻 静	欠席
宮城県青年農業士	(株)一莓一笑代表	佐藤 拓実	
(公財)仙台市産業振興事業団	野菜ソムリエ上級プロ	カワシマヨウコ	
名取市生活経済部農林水産課	課 長	菊地 俊雄	
岩沼市市民経済部農政課	課 長	森 康雄	
亶理町農林水産課	参事兼整備班長	斎藤 正樹	代理出席
山元町農林水産課	政策推進班長	加藤 拓己	代理出席
JA名取岩沼営農部	部 長	大友 保夫	
JAみやぎ亶理営農部	部 長	志小田 剛	
亶理山元商工会	課 長	佐藤 良一	代理出席

<普及センター職員等>

所 属	役 職	氏 名	備 考
農業振興課普及支援班	革新支援専門員 技術主任主査	阿部 倫則	
亶理農業改良普及センター	所 長	松原 馨一	
〃	総括次長	門間 豊資	
〃 地域農業班	技術次長(班長)	貴田 喜徳	
〃 〃	技術主幹(副班長)	山家 いずみ	
〃 〃	技術主査	佐藤 浩子	
〃 先進技術班	技術次長(班長)	佐藤 敏昭	
〃 〃	技術主幹(副班長)	伊藤 博祐	
〃 〃	技術主幹	高橋 秀典	
〃 〃	技術主任主査(副班長)	大内 信博	
〃 〃	技術主査	嶋田 圭	
〃 〃	技 師	鈴木 俊矢	
〃 〃	技 師	松崎 航	

新たな品目・技術導入による 土地利用型法人の経営発展

計画期間: 令和4~5年度

担当チーム職員: 松崎 航, 貴田喜徳,
伊藤博祐, 佐藤浩子,
嶋田 圭

背景

- 米価下落が土地利用型農業を営む経営体に大きな影響を与え、主食用米からの作付転換が求められているが、園芸品目導入に関しては、設備投資等の課題もあり、その取組は進んでいない状況にある。
- 岩沼市では、(農)志賀が令和元年から「ぶどう」、(農)長岡グリーンサポートが令和3年から「加工用ばれいしょ」を栽培しており、園芸品目導入のモデルケースとして期待されている。
- 両法人は、県営ほ場整備事業を契機に隣接する集落で平成28年に設立され、一部機械の相互貸借等によりコストの低減化を図っている。令和3年から水稻乾田直播栽培に取り組んでおり、技術定着に向けた支援が必要である。
- 両法人は設立から6年経過しており、経営環境も変化していることから、中長期的な事業計画の策定・見直しが必要である。

目標

- 対象者
 - (農)志賀, (農)長岡グリーンサポート
- 定性的目標
 - 中長期計画の作成に向けて, 経営上の課題を明らかにすることができ, 経営改善の取組が行われる。
 - 経営改善に向けて新たな品目, 技術が導入される。
- 定量的数値目標
 - 園芸品目の売上高の増加率
R3: 100% → R4: 125% → R5: 150%
 - ※ 2法人合算の売上高(ぶどう, 加工用ばれいしょ)

活動事項

- 法人運営体制の強化支援
 - 中長期計画作成に向けて, 中小企業診断士を派遣し, 実績に基いて現状を分析し, 経営上の課題を明確にする。
- 新品目・技術定着支援



法人運営体制強化支援（志賀，長岡）

- 主な取り組み

- 経営状況等の聞き取り，中小企業診断士の派遣

- 成果及び課題

- 過去複数年の財務諸表をもとに，現状を整理しました。
- 次回は，品目ごとの実績をもとに，来期以降の見通しを立てる計画です。

1/17_中小企業診断士による経営支援



新品目・技術定着支援：ぶどう（志賀）

- 主な取り組み

- 定期的な巡回指導，作業状況等の聞き取り

- 成果及び課題

- 技術支援等により，収量，売上高が前年を大幅に上回った。
- 水稻，大豆と作業競合し，過熟となって販売できないぶどうがあった。ぶどう樹の半数は今後も樹冠拡大する見込みであり，品目間の作業調整が課題。

6/14_摘粒作業



新品目・技術定着支援： 加工用ばれいしょ（長岡）

- 主な取り組み
 - 生育調査, 現地試験実施の円滑化, 研修会への参加誘導
- 成果及び課題
 - 湿害や収穫作業の遅れ等により, 前年の収量や売上高を上回ることができなかった。
 - 来年度は, 排水対策をより強化して取り組む計画である。

5/30_ばれいしょ生育調査



新品目・技術定着支援： 水稻乾田直播栽培（志賀，長岡）

- 主な取り組み
 - 生育調査, 勉強会の開催, 施肥試験の実施
- 成果及び課題
 - 両法人とも, 移植栽培並みの収量をあげることができた。
 - 大豆後作において, 施肥量を削減できる可能性が示唆された。
 - 飼料用等, 用途に応じた品種の選定が課題。

7/8_乾田直播栽培勉強会@長岡



その他の活動の様子

2/9_排水対策研修会



6/23_カルビーポテト株堀調査



5/20_乾田直播栽培の生育調査



9/22_選別作業



今年度の成果

• 定性的目標

- 中小企業診断士の指導を受けながら現状を分析することで、経営改善の取組が行われるきっかけとなった。

• 定量的数値目標

- 売上高の前年対比について、ぶどうは215%、ばれいしょは86.7%、合算では95.9%だった。

※今後も中小企業診断士の派遣による経営支援や試験研究機関と連携した技術支援等を行っていく。

次代を担ういちご生産者の環境 制御技術等の習得による生産性向上



計画期間：令和4～5年度

対象者：栽培を開始して1～3年のいちご生産者8人

担当チーム員：鈴木俊矢，松原馨一，山家いずみ，佐藤浩子，嶋田圭

課題の背景と目標

背景

①いちご生産者の後継者が約6割就農している。現在の経営主体は60代後半を中心とした親世代であり，後継者へのスムーズな世代交代が望まれている。

②生産者の中には，他業種からのUターンによる後継者や，県外，管外出身の新規就農者が数人おり，生産者間の繋がりが，栽培の悩みを相談できる機会が少ない状況である。



目標

①栽培の基礎知識を習得しつつ，いちごの生育・ハウス内環境データを活用して温度や肥培管理，二酸化炭素施用ができるようになる。

②勉強会を通じて，生産者間で自主的に交流できる関係が構築される。

活動事項

1 環境制御技術の習得による収量向上支援

- ① 振り返りの実施
- ② 新品種導入の支援
- ③ 夜冷処理の導入による作型の提案
- ④ 本ぼ定植後の環境制御技術向上支援

2 栽培の基礎を中心とした勉強会開催による栽培技術向上支援，生産者間交流支援

- ① 育苗時の肥培管理改善(各対象者の育苗支援)
- ② 育苗・本ぼの病虫害防除
- ③ 勉強会・講習会の開催

活動内容及び成果 1

① 振り返りの実施

令和4年産いちご振り返り様式			
生産者名：生産者A			
もういっこ面積：	R4年産 2.4 a	R5年産 2.4 a	
なし	R4年産 0a	R5年産 0a	
R4年産収量：	年内 kg/10a	全体 kg/10a	
R5年目標収量：	年内 750kg/10a	全体 7000kg/10a	
R4年産改善点等			
・年内収量は良かったがもう少し早く取りたい。1週間早くなればベスト。			
・作を通じてコナジラミが多かった。育苗時、定植後の炭疽病。			
・ハダニやアザミウマは問題なし。・1月、4月の中休みが長い。			
R4、5年産管理（予定含む）			
・株間 (cm)			
R4	プランター8株植え(18cm)	R5	プランター8株植え(18cm)
・受け期間・挿し日			
R4	7月16日から7月17日	R5	7月16日から7月17日
・切り離し日(受け苗の場合)			
R4	挿し	R5	挿し
・夜冷処理期間			
R4	8月3日から9月5日	R5	8月3日から9月5日
・定植日			
R4	9月9日	R5	9月9日
・収穫開始日(R4)： 11月13日			
・収穫開始日(R5)：目標 11月10日			
その他			
・1月の中休みを短くするために、1月20日頃から第一萼花房を収穫したい。			
・第一萼花房の分化を促すため、マルチ張りを1週間遅らせる予定 (10月18日~20日)。			

- ・令和4年産の作の振り返りを実施，生産者それぞれの課題を整理し，改善策を検討した。令和5年産に改善を目指す。

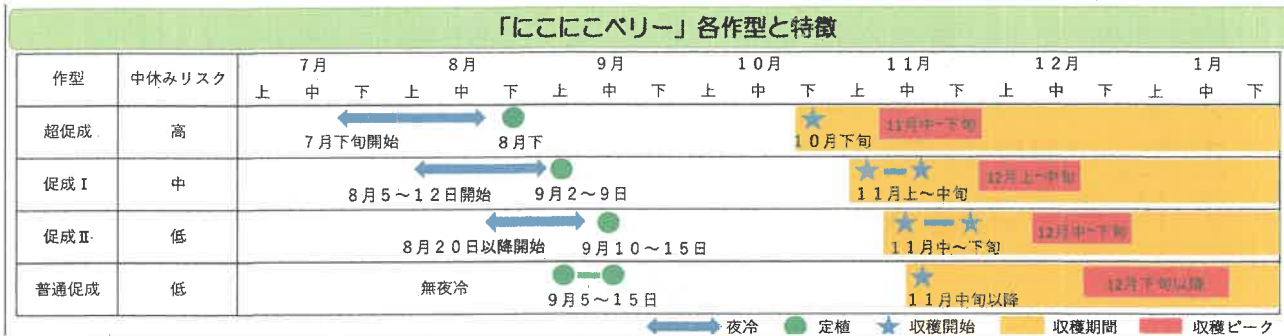
令和4年産の収量をもとに令和5年産の目標収量を聞き取り。



目標達成のための課題点について整理。

活動内容及び成果 1

②新品種導入の支援



令和5年産から初めて「にこにこベリー」を栽培する生産者2人に対し、目標の収穫開始日に合わせた夜冷処理、定植日、株間について提案。



生産者自身で「にこにこベリー」の特性に合わせた定植までの作業スケジュールと、株間の選定ができるようになった。

活動内容及び成果 1

③夜冷処理導入による作型の提案

夜冷処理を初めて実施する2人の生産者に対し、夜冷処理と無夜冷の育苗の違いを説明するとともに、「とちおとめ」、「もういっこ」それぞれで、夜冷処理～定植日のスケジュールを提案。



夜冷処理と無夜冷の違いを理解し、作業スケジュールを生産者自身で決めることができるようになった。

活動内容及び成果 1

④本ぽ定植後環境制御向上支援

環境測定装置を導入している生産者にはウィークリーレポート(以下WR)を作成し，配布した。また，WRのデータから温度や二酸化炭素施用のアドバイスを実施した。



環境測定装置のデータを活用できるようになった。いちごの株と温度との関係の理解が深まった。

二酸化炭素施用の有効な使用方法について理解が深まった。

活動内容及び成果 2

①育苗時の肥培管理改善（各対象者の育苗支援）

育苗時の窒素切れにより頂花房及び，第一腋花房の収量低下の原因になっているため，育苗時の肥培管理についての資料を配布した。



対象者の内，3人で肥料混ぜ込み，4人で液肥での追肥を実施し，窒素を切らさない苗管理ができるようになった。

育苗培土+鹿沼土+ロング肥料混ぜ込みの様子



充実した株を育苗することができた

事例

○初めて親株から育苗する生産者の支援



排水ECが高く親株に障害が発生していたが...



水のかけ流しによる残肥洗い流した後、徐々にECを高めて回復した。



採苗時期には無事目標数の苗を確保することができた。

活動内容及び成果 2

②育苗・本ぽの病虫害防除

- 苗の安定確保，年内収量の増加を図るため，阻害要因になっている炭疽病防除対策資料を配布し，指導を徹底した。
- 管内のベテラン生産者からの防除頻度についての聞き取りを実施し，対象者に情報提供を行った。

防除間隔が2週間に1回から4～7日に1回と頻度が高くなり，炭疽病発生を抑えることができた。

昨年発生した炭疽病株（→写真）



活動内容及び成果 2

③勉強会・講習会の開催(育苗期)

- 7月27日に育苗の勉強会を開催し，育苗の重要性及び育苗のポイントについて普及センターと農業・園芸総合研究所イチゴチームを講師に講義を実施した。管内の若手生産者及び後継者を中心に36人参加。
- 農協主催の講習会は5月と8月の2回実施しており，普及センター，農園研園芸環境部が講師となって育苗時の栽培・病害虫管理等について講習を実施した。



育苗技術向上に加え，勉強会の前後は生産者間での情報交換の機会となっている。

○勉強会・講習会の様子



5月育苗講習会



7月育苗勉強会



8月定植前講習会

活動内容及び成果 2

③勉強会・講習会の開催(本ぽ定植後)

- 10月26日に本ぽ勉強会を開催し、定植後の環境管理（温度、湿度、CO2、かん水等）のポイントについて普及センターと農園研イチゴチームを講師に講義を実施した。また、やまもとファームみらい野のハウスを視察した。管内の若手生産者及び後継者を中心に42人参加。
- 農協主催の講習会は10~11月に各支部で実施しており、普及センター、農薬メーカーが講師となって本ぽの栽培・病害虫管理等について講習を実施した。



本ぽ栽培技術向上に加え、視察時には生産者間の情報交換の機会となっている。

○勉強会・講習会の様子



10月26日育苗講習会 座学



現地視察 (株)やまもとファームみらい野

今年度の成果

・ 定性的目標

- ①巡回指導，勉強会開催により基礎知識の習得ができた。ハウス内環境データを基にした指導で環境制御技術が向上した。
- ②勉強会の開催により，生産者間で交流できる関係が構築された。

・ 定量的数値目標

年内収量 R3:100%→R4:105%→R5:110%
(集計中)

※今後も巡回指導，勉強会を開催し技術向上及び，生産者交流支援を実施します。

担い手育成と果樹優良品種導入による果樹産地の維持発展

計画期間:令和4~5年度

担当チーム職員:伊藤博祐, 門間豊資,
佐藤敏昭, 大内信博

計画目標

- 対象者
 - 若手果樹生産者6人(巨理町4人, 山元町2人)
※ 果樹栽培経験の少ない生産者
- 期待される対象の変化
 - 若手果樹生産者の技術力向上と意識醸成により, 収量向上や新植・改植面積の増加し, 産地の維持・発展が図られる。
- 定性的目標
 - 交流活動や産地PRにより産地改革の意欲が醸成される。
- 定量的数値目標
 - 果樹の新植・改植面積の増加(りんご, ぶどう)
 - R3:0a→R4:10a→R5:20a

令和3年度までの関連活動

- 平成30年度
 - 若手りんご生産者を対象とした技術勉強会を計8回実施。
- 令和元年度
 - 管内りんご園地の視察会を2回開催。
 - 管外視察(登米市)を企画(台風襲来で中止)。
- 令和2年度
 - 管外視察を2回開催。
 - 1回目:蔵王町(蔵王はるか会)
 - 2回目:仙台市(仙台農業園芸センター及びフルーツパーク仙台あらはま)
- 令和3年度
 - 管外視察(登米市)を開催。
 - 若手りんご生産者を対象としたりんごせん定講習会を開催。

※いずれも、亘理果樹振興協議会主催活動で、当普及センターが支援した。

令和3年度までの関連活動



今年度の活動(1)

- 「亘理・山元果樹産地構造改革計画」に基づく果樹経営支援対策事業活用の誘導
 - 亘理町及び山元町主催で、各町内の果樹生産者向けに事業説明会が開催された。
 - 課題対象者には、当事務所からも個別に事業紹介した。
 - 2生産者(個人1(課題対象者),法人1)から事業活用の相談があり。
 - 詳細を聞き取りした結果、1生産者(法人)が事業申請することとなった。

今年度の活動(2)

- 技術勉強会を開催(年間6回予定,4回開催済み)
 - テーマ:りんご栽培の土づくり
 - 課題対象者を含め、毎回9人程度の参加あり。
 - 毎回、りんご栽培における土づくりについて、参加者同士で情報交換が行われた。
 - 勉強会開始前後のすき間時間で、りんご栽培や営農全般に係る参加者同士の情報交換が行われた。



今年度の活動(3)

• 現地研修会を開催

- 宮城農園研果樹ほ場視察
(9月12日開催, 10人参加)
 - 課題対象者含め, 栽培経験が比較的浅い生産者は, 農園研果樹ほ場を訪問する機会がほとんどなかった。
 - ほ場をみながら, りんごのジョイント栽培や様々な品種特性などについて, 多くの質問が出された。
 - 試験研究機関の活動状況を知る機会となった。
- りんごせん定講習会(令和5年1月20開催)
 - 昨年度(令和4年1月)開催と同様, 対象を若手生産者に絞ったせん定講習会を開催。講師は, 昨年度と同じ管内の篤農家に依頼。



今年度の活動(4)

• 「シャインマスカット」販売会を開催(9月29日開催)

- 令和元~3年度の年1回, 前課題活動で実施。
- 課題対象者の一部が「シャインマスカット」を栽培しており, 今年度はそのPR支援の一環として実施。
- 鳥の海ふれあい市場協同組合と共催。
- 会場は, 亘理町鳥の海ふれあい市場駐車場。
- 課題対象者1人を含む3生産者に出品いただき, 準備された約130房が2時間で完売。



今年度の活動(5)

• 実需者とのマッチング支援

- 課題対象者の一部から、取引している実需者からのりんご出荷依頼(対象品種は「サワールージュ」)に当該農場のみでは数量不足のため、生産者の紹介を当センターに相談があった。
- 「サワールージュ」を栽培している別の課題対象者を紹介し、実需者とのマッチングが成立した。

今年度の成果

• 定性的目標

- 本課題開始前から果樹経営に対する意欲は醸成されていたが、今年度の活動を通じて、その動きを促すことができた。

• 定量的数値目標

- 令和4年度、40aの新植・改植が行われた(12月現在)。
- 内訳:りんご35a, ぶどう5a
- 令和4年度末までに、さらにぶどう2a新植予定。
- このほか、課題対象者の多くで、補助事業を活用した中長期的な新植・改植計画を検討している。

※今後も、勉強会や研修会の開催を通じて、支援を行っていく。

プロジェクト課題No. 4

新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現



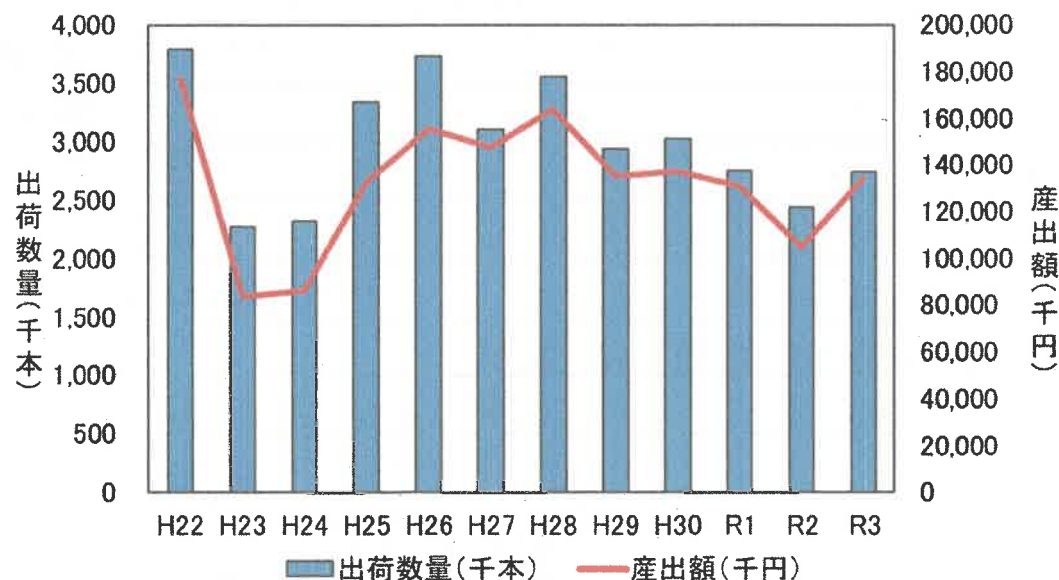
計画期間：令和3年度～令和4年度

対象：名取市花卉生産組合のカーネーション生産者16戸

チーム員：高橋秀典，佐藤敏昭，山家いずみ，大内信博

課題の背景

名取市はカーネーションの東北一の産地
しかし、高齢化が進み、生産・出荷は減少傾向



名取市におけるカーネーションの出荷量，産出額の推移
(花き産業振興総合調査)

課題の背景と活動事項

産地内では生産の効率化に向けた技術導入の動き

- ・ 化学合成農薬だけに頼らず、様々な手段を用いて病害虫防除を行うIPM（総合的病害虫管理）
- ・ 冬季の夜間変温管理で、燃油消費量の削減を図るEOD-heating

消費者の要望に応えるために産地表示販売を試行

- ・ 「名取のカーネーションを購入したい」との問い合わせがあるが、花き類の場合、産地名を表示した販売がほとんど行われていない。



生産活動を持続可能にするために、以下の内容を軸に支援を実施

- ① 新たな生産技術(IPM, EOD-heating)の導入支援
- ② 産地表示販売の導入支援

活動事項 ①新たな生産技術の導入支援 (1) IPM (総合的病害虫管理)

害虫防除の現状

- ・ 化学合成農薬の多用により、害虫の薬剤抵抗性が発達



ハダニ類による被害

アザミヤカ類による被害

IPM (総合的病害虫管理) について

- ・ 化学合成農薬だけに頼らず、様々な手段により病害虫を抑制する管理手法



* 画像は農研機構
果樹茶業研究部門
リンゴ研究領域
岸本氏撮影によるもの

天敵(ミコカブリダニ)

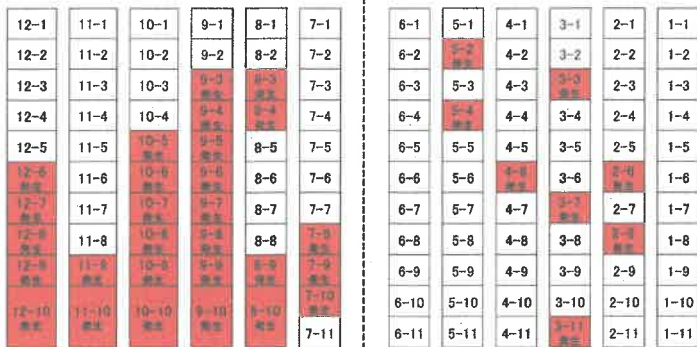


防虫ネットと捕殺用粘着トラップ

活動内容と成果 ①新たな生産技術の導入支援

(1) IPM (総合的病害虫管理)

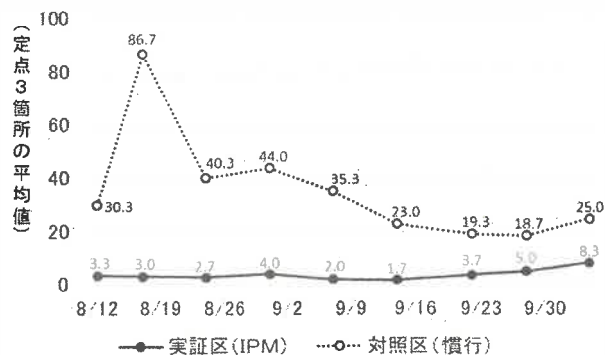
ハダニ類の発生分布図 (天敵放飼45日後)



天敵放飼なし
(発生:28区画)

天敵放飼あり
(発生:8区画)

アザミウマ類の発生頭数の推移



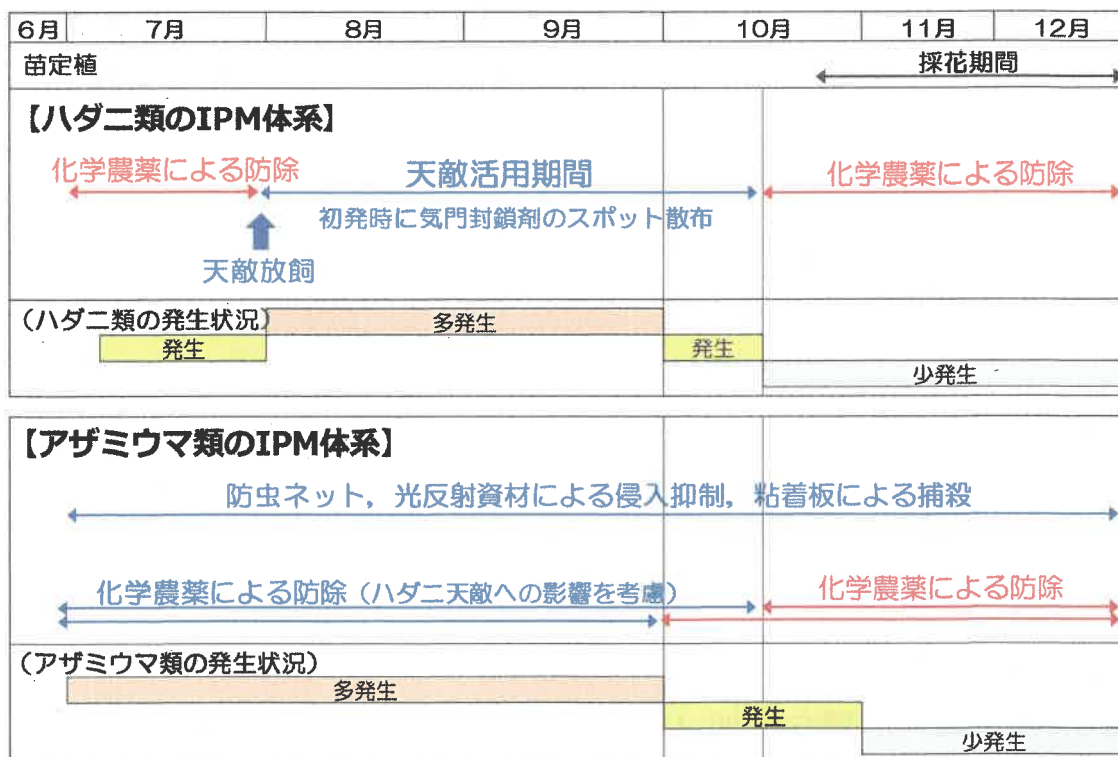
化学合成農薬の使用回数, 農薬の全面散布の回数

	実証区 (IPM)	対照区 (慣行)
化学合成農薬の使用回数 (6月下旬~10月中旬)	10	24
農薬の全面散布の回数 (6月下旬~10月中旬)	7	11
〃 (8月~9月中旬)	0	6

活動内容と成果 ①新たな生産技術の導入支援

(1) IPM (総合的病害虫管理)

IPM体系の作成と産地への提案

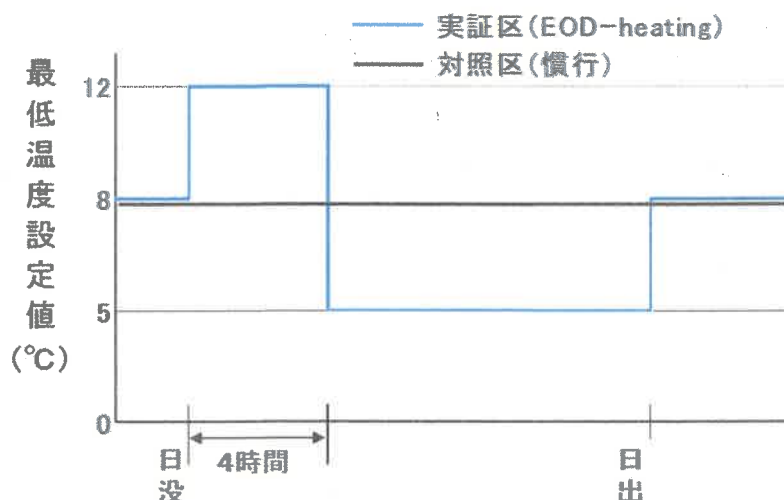


活動事項 ①新たな生産技術の導入支援

(2) EOD-heating

EOD-heatingとは

日没から数時間、植物は温度への感受性が高まることから、この時間帯の効率的な温度管理により、燃料使用量を削減しようとするもの。



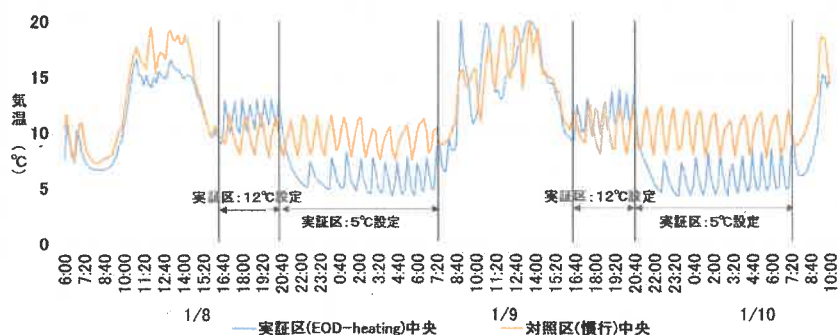
R2年度の現地実証では、採花本数や切り花品質には影響を与えずに、冬季の燃油使用量が約3割削減される結果が得られた。

活動内容と成果 ①新たな生産技術の導入支援

(2) EOD-heating

・施設内気温の実測による温度管理の支援

施設内気温を実測し、設定温度と実測温度が一致するよう温度管理を支援



温度管理の精度が向上し、低温障害（着色不良花）の発生は、支援の開始以降、見られなくなった。

・燃油消費量の削減効果の確認（※R2年度実証の対照区と比較した参考結果）

R3年度：31%の削減，R4年度：計測中

・技術導入面積の増加

取組農家は導入面積を増加（R2年度：300坪 → R3,4年度：600坪）

活動内容と成果 ②産地表示販売の導入支援

名取市花卉生産組合を主体とした取組を提案し、名取市内及び近郊の生花店に協力を求め、産地表示販売の実証を支援した。

生産者による生花店 への協力依頼



産地PR資料の作成



産地紹介資料の作成

のぼり旗
((一社)名取市観光物産協会)

活動内容と成果 ②産地表示販売の導入支援

生花店9店舗での産地表示販売の実現 (R3年4~5月, R4年2月, 5月)



生花店の事後訪問による意見交換



生花店を産地に招いた交流会



- ・ 関係機関(名取市,(一社)名取市観光物産協会,巨理農改)での共同支援が実現
- ・ 生産者, 生花店, 関係機関の交流機会が増え, 相互理解が深まった。

活動目標に対する実績

定性的目標

- 効率的な害虫防除と加温管理により、労力と費用を抑えた生産ができる。
→ 現地実証で得られた労力と費用の軽減結果を産地内で共有し、技術を取り入れた栽培体系の提案も行った。
- 産地表示販売の実現により、産地を持続、発展させる意欲が醸成される。
→ 対象農家や生花店、関係機関内で取組に対する共通認識ができ、地域の特産品を盛り上げていこうとする機運が生じている。
(産地表示販売の取組が定着している生花店もある。)

定量的数値目標

	【令和2年】	【令和3年】	【令和4年】
新たな生産技術 の導入農家数	3戸	→ 5戸	→ 8戸
(実績)		6戸	→ 8戸

今後の課題

- ・IPMの発展（光反射資材の活用、ハダニ類とアザミヤカ類の防除の両立等）
- ・生産者・販売者・関係機関の繋がりを生かした活動の展開

第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画

仙台地方振興指針

普及事業の指針・方針

協同農業普及事業の運営に関する指針(国指針)

- 1 担い手の育成・確保
- 2 スマート農業の実践等による生産・流通現場の技術革新・生産基盤の強化
- 3 気候変動への対応等環境対策の推進
- 4 食料の安定供給の確保
- 5 農村の振興
- 6 東日本大震災からの復旧復興と大規模自然災害等への対応

協同農業普及事業の実施に関する方針(県実施方針)

(計画期間:R3~R7)

- 1 みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化
- 2 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
- 3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

亘理地域普及指導基本方針(地域基本方針)

(計画期間:R3~R7)

- 1 生産技術の高度化による競争力の高い園芸産地の確立
- 2 次世代につなぐ収益性の高い水田農業・畜産経営の確立
- 3 地域農業を支える多様な人材の確保・育成
- 4 農村地域の資源活用と持続可能な農業・農村の構築

普及指導方針(年度方針)

- 令和5年度重点活動項目 -

- (1) 生産技術の高度化による競争力の高い園芸産地の確立
- (2) 次世代につなぐ収益性の高い水田農業・畜産経営の確立
- (3) 地域農業を支える多様な人材の確保・育成
- (4) 農村地域の資源活用と持続可能な農業・農村の構築

- (1) 生産技術の高度化による競争力の高い園芸産地の確立
県内一の園芸産地の維持・発展を目指し、野菜、花き、果樹を中心とした園芸品目生産の増大に向け、先進的技術の導入や新品目等の導入等による競争力の高い産地確立に向け、各市町、農業団体、試験研究機関等の関係機関と連携しながら普及活動を展開していく。
① 野菜の生産技術の高度化による産地力強化
② 果樹の省力化技術の導入による産地維持と新規導入品目の産地育成
③ 花きの生産技術向上とブランド化推進による産地力強化
- (2) 次世代につなぐ収益性の高い水田農業・畜産経営の確立
競争力の高い農業生産基盤を実現するため、農地中間管理事業等を活用した担い手への農地の集積・集約化を推進するとともに、水田フル活用による収益性の高い水田農業の展開や、畜産経営の体質強化に向けた支援を行う。
① 農地集積・集約化による地域農業再編支援
② 収益性の高い水田農業の展開支援
③ 耕畜連携を生かした畜産の体質強化
- (3) 地域農業を支える多様な人材の確保・育成
各市町担い手育成総合支援協議会等と連携して、産地の発展と地域農業の活性化を担う意欲ある担い手の育成を推進する。
① 意欲ある農業経営体の育成と経営の安定化・高度化支援
② 競争力のあるアグリビジネスの経営体の支援
③ 新規就農者等の確保・育成と多様な人材の活躍支援
④ 農村地域の担い手の育成
- (4) 農村地域の資源活用と持続可能な農業・農村の構築
地域資源を生かした「なりわい」の創出による雇用機会の拡大や所得の確保に向けた取組を行うとともに、「豊かな食」の生産基地としての役割を果たすため耕作放棄地対策や有害鳥獣対策等を講じ、農業・農村の地域の持続的発展を推進する。
① 地域資源を活用した多様ななりわい(ビジネス)の創出による地域振興
② 食と農への理解促進と安全・安心な農産物生産の取組支援
③ 環境と調和した持続可能な農業生産の取組支援
④ 遊休農地(耕作放棄地)の解消と野生鳥獣対策の取組支援
⑤ 自然災害に負けない強い農業・農村づくりに向けた支援

令和5年度普及指導計画

プロジェクト課題

1 新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展(継続課題) <「地域計画」「園芸振興」「耕畜連携」関連課題>

- 大規模な土地利用型法人を対象に、将来を見据えた経営計画の策定・見直しと、園芸品目や新技術導入による経営発展を支援する。
・対象:農事組合法人長岡グリーンサポート、農事組合法人志賀
・計画期間:令和4~5年度
①法人運営体制強化支援
②新品目・新技術定着支援
・目標:園芸品目売上高の増加率
100%(R3) → 125%(R4) → 150%(R5)

2 次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上(継続課題) <「園芸振興」「アグリテック」関連課題>

- 近年増加傾向にある、いちごの後継者を対象に、環境制御技術を中心とした技術支援を行いながら、生産者間のネットワーク構築を支援する。
・対象:栽培を開始して1~3年のいちご生産者8人
・計画期間:令和4~5年度
①環境制御技術等の習得による収量向上支援
②栽培の基礎を中心とした勉強会開催による栽培技術向上支援、生産者間交流支援
・目標:年内収量の増加率
100%(R3) → 105%(R4) → 110%(R5)

3 かんしょの産地育成(新規課題) <「園芸振興」「耕畜連携」関連課題>

- 大規模露地園芸の品目として面積の拡大が進むかんしょの、栽培管理技術と貯蔵性を高めるキュアリング技術の普及拡大を図り、県内一の産地化を支援する。
・対象:露地園芸に取り組む3法人(亘理町管内1法人、山元町管内2法人)
・計画期間:令和5~6年度
①栽培・貯蔵に関する技術向上支援
②生産物の品質向上と出荷体制の構築支援
・目標:10a当たり収量の増加 100%(R4) → 110%(R5) → 120%(R6)

4 農地整備を契機にした地域農業の展開(新規課題) <「地域計画」「園芸振興」関連課題>

- 名取市下余田2期地区の県営ほ場整備実施に向け、新たな担い手を育成し、円滑な事業実施と地域農業の活性化を支援する。
・対象:下余田2期地区活性化推進委員会(24人)、同地区担い手経営体(11人)
・計画期間:令和5~6年度
①新農業法人の経営計画作成支援
②新農業法人への農地と集約化支援
・目標:新農業法人の法人化計画の策定 0(R4) → 0(R5) → 1(R6)

普及センター活動(重点)

- 新規就農者の確保・育成支援
対象:新規就農希望者、新規就農者
- 果樹後継者の育成支援
対象:果樹生産者
- 耕畜連携の推進
対象:土地利用型法人、沿岸部の露地野菜栽培法人
- 水稲直播栽培技術の生産性向上支援
対象:水稲直播栽培を導入又は導入の意向がある生産者

普及センター活動(一般)

- 収益性や競争力を高める農畜産物の生産
- 経営管理能力の向上
- 農畜産物の安全性確保の推進(放射性物質検査含む)
- 環境保全型農業の推進
- 農業・農村の担い手確保と育成
- 農村資源の保全と活用
- 消費者と農業者の相互理解の推進
- 情報発信等

調査研究

- プロジェクト課題等に関連して、現地での調査研究を普及指導員各人が調査内容を設定し、課題解決の糸口を見いだす活動。

